

ペインクリニックと神経ブロック

「ペインクリニック」は日本語では、「疼痛外来」といい、各種の「痛み」に対する治療を目的にしています。

「神経ブロック」は、このペインクリニックで最もよく用いられる手法であるため、ペインクリニック＝神経ブロック と思われがちですが、早期に「痛み」から解放され、活動的な日常生活を取り戻すために、鎮痛薬や理学療法・運動療法などとともに、「神経ブロック」を組み合わせます。

神経ブロックとは

皮膚の表面より針を刺し、神経のすぐそばまたは直接神経内に針先を誘導し、局所麻酔薬や神経破壊薬を注入して、神経の伝達機能を一時的または半永久的に遮断する方法です。神経ブロックは手術のための麻酔として用いられていますが、純粹に「痛み」の治療を目的としても行われるようになりました。

「痛み」があるとその周辺では筋肉が緊張したり、血管が収縮したりして、“**痛みの悪循環**”が起こっています。神経ブロックにより、痛みの伝達を遮断するとともに、血液の流れを改善しこの“**痛みの悪循環**”を断ち切ります。“**痛みの悪循環の遮断**”

整形外科疾患と神経ブロック

整形外科には、痛みを伴う疾患が多く、神経ブロックが有効です。

代表的な神経ブロックとして、**星状神経節ブロック**と**硬膜外ブロック**があります。

頸や肩、上肢の痛みは、頸椎捻挫・外傷性頸部症候群・頸肩腕症候群・胸郭出口症候群・筋収縮性頭痛・肩関節周囲炎・頸椎椎間板ヘルニア・変形性頸椎症などが原因のことが多く、この場合は星状神経節ブロック、肩甲上神経ブロック、トリガーポイント注射などの適応となります。

腰痛や下肢痛を伴う急性腰痛症（ぎっくり腰）・腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・変形性脊椎症などに対して腰部硬膜外ブロック、仙骨硬膜外ブロック、神経根ブロック、傍脊椎ブロックなどが行われます。

その他の神経ブロック適応疾患

非定型的顔面痛・片頭痛・顔面神経麻痺・三叉神経痛・帯状疱疹後神経痛・反射性交感神経性萎縮症・幻肢痛・鼻アレルギー・突発性難聴・下肢血行障害など、多くの疾患に対して神経ブロックが有効な治療法として選択されることもあります。

神経ブロックは、主として麻酔科医が担当します。お気軽にご相談ください。

高田整形外科病院 < TEL088-698-8689 <http://www.takata.or.jp> >